

# 碩 心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可  
神奈川 碩 学 院 会 発 行

13年 3月現在 逗子地区 葉山地区 大船地区 (合計)	会員数 127名 184名 26名 337名	13年 3月 (344号) 発行者 千 葉 岳 関 編集者 白 井 岳 麗
--	------------------------------------	---

## 行事予定

- 逗子市詩吟詩舞連盟大会  
日時・4月15日(日) 9時30分開始  
場所・逗子市図書館ホール
- 碩心会皆伝会  
日時・5月6日(日)  
場所・逗子市図書館ホール
- 第6回年齢別吟詠大会  
日時・5月19日(土) 5月20日(日)  
場所・地球市民かながわプラザ
- 第二地区吟行会  
日時・6月17日(日)~18日(月)  
場所・山形県寒河江  
実録のり・4月15日
- 碩心会温習会  
日時・6月24日(日)  
場所・逗子市図書館ホール
- 碩心会夏季吟道講座  
日時・7月15日(日)  
場所・逗子市図書館ホール
- 神奈川地区吟道大会  
日時・7月8日(日)  
場所・相模原市民会館

○平成13年1月1日付で総伝位に左記の方々が認許されました。おめでとうございます。

- 立澤千世美 岳晴 (若葉)
- 渡辺 恵 岳雲 (逗子A)
- 石川登代子 岳豊 (風早)
- 鈴木喜一郎 岳寿 (下山口)
- 加藤みよ子 岳朋 (堀内A)

### お知らせ

各支部、各教場の近況をお知らせ下さい。  
集合写真があれば一緒にお願いいたします。  
毎月、順次掲載ご紹介の予定です。

### 訃報

相談役の三井岳瓏先生が平成13年3月10日(94才)のご長寿にて、逝去されました。  
ご家族のご意志により衣笠の大明寺に於て3月12日密葬されました。当会より千葉岳関会長が代表でお別れをされました。(別文)  
ここに改めて碩心会会長として長い間ご活躍下さいました先生に、心より会員一同ご冥福をお祈り申し上げます。

## 三井岳龍先生の急逝を悼む

碩心会会長 千葉 岳 関

当会の相談役宗匠正師範三井岳龍（本名謙二）先生が3月10日に急逝されました。

94才でした。謹んで哀悼の意を表します。翌11日に横須賀衣笠の大明寺齋場において通夜、12日が告別式でした。10日に会員の方から第一報が入りましたが、先生宅から連絡がなく直ちに弔慰等の行動をすることに制約がありました。夜遅くなってから私宅に会の代表の形でお焼香願いたい旨の電話が入り、直ちに会の幹部の方々へ連絡を入れ、11日の通夜に代表として参列しました。

聞くところではご本人が遺言を残されており、万一のときは家族と小範圍の方で密葬にとのことを書いてあり、会の方にはご迷惑にならぬようにとの配慮がなされたのでした。私はその旨了承し親戚として、又会長の立場で参列させて頂きました。皆々様にはこの報をもって、お詫びかたがた生前の御礼を申し述べたいと存じます。

ご承知の通り三井先生は当会が戦後再開されてから入会され、第三代の会長として三期

を会の先頭に立って会員増強に努め、飛躍的發展に導いた大功績者であり、先生の指導力は抜群のものがありません。又その人格は誠に円満であり、誰からも慕われる方でもありました。

三井先生と私のかかわりについては、平成8年の吟道神奈川第57号に掲載したことがあります。妻同志の父が兄弟という、いとこの仲であり、私と三井先生は義理のいとこと言います。前夫人が生存中はよく私宅にも見えて二人で痛飲した思い出も多くあります。

先生は海軍江田島の兵学校出身、私は予備士官学校卒と軍人としての話が相通するものがあり、私は心から敬服してきたところでもあります。晩年は直接の詩吟の指導も中止し、老人ホームに入られて、静かに余生を楽しんでおられたようですが、一週間程前から急に老衰状況が加わり急逝されたのでした。

因みに通夜で金沢区金竜院のご住職が紹介された法名は「岳龍嶺謙居士」という正に吟道に生涯をかけられた先生にふさわしいものでした。

なお御家族からは「皆々様に生前大変お世話様に相成りました。よろしくお伝え下さい」との伝言がございました。ここに御本人の自由意志による皆様への御迷惑を私からお詫び申し上げると共に、同氏の生前に対すること厚誼に深く厚くお礼申し上げて、お知らせと追悼の言葉に代えさせて頂きます。（文責会長）

## 高齢雑感

中村 岳 郵

昭和の始め、私の少年時代は、一月一日になると全国民揃ってひとつ歳をいただき、新年と加齢を祝ったものである。当時は人生五十年といわれ、嗚呼予二十七将に一生の半を終わらんとすかと詠われている。

連綿と続く長い歴史の中には、様々な時代があるもので、やがて青年時代になると

「生きて帰ると思うなよ白木の箱が……」

「夢に出てきた父上に死んで帰れと……」

「明日出て行く前線に、いづれが花と……」

「隣におりし我が友が俄にはたと……」

と歌われ、明日の生命も判らない戦争の真只中、強運に恵まれ生還してからは、生活との闘いでした。戦争で同輩の半数を失い、その

後の半世紀で、又多くの同輩が黄泉に旅立った。そんな時代であったのに、今や人生80年の高齢社会だという。信じがたい現象である。

かつて新聞コラムで「青春」の詩を読み、即座に切り抜き保存していた。数年後教場で勉強した時は、最高の感動を味わったことを覚えていた。「人生限りあり」「人生古より誰か死なからん」。傘寿を過ぎて体力の衰えを感じるようになったのか、そんな詩文が心に焼きついてくる。「年をとることは衰退ではなく、円熟することであり、気が充実していることが健康です」(聖路加病院院長 日野原重明)

人の生や気なり、気は以て養わざるべからず(吟道精神)。気を養うのが吟道であることを再認識し、生ある限り声を出しておこうと改めて思った。

二度とない人生、一輪の花にも無限の愛をそそぎ、一羽の鳥の声にも無心の耳を傾けて貧しいけれど心豊かに接して行きたい。



## 雲をめぐる吟想

東伏見支部 森合 嘯風

昨年11月葉山町の文化祭と頌心会の地区温習会にて、連吟で吟詠した。

その一は「友人を送る」李白。その二は「秋風の辞」漢武帝である。李白の詩は長途の旅に出かけようとする友への愛惜の情をよんだもので、「浮雲遊子意 落日故人情」夕陽をうけて茜色に染まる雲、山の端に沈まんとする落日をうたって深重に心に沁みる句である。

また二千年前、歴史上並びない権勢を誇った漢の武帝の秋風の詩は「秋風起って白雲飛び……少壯幾時ぞ老ゆるを奈何せん」と千古の寂寥をうたって余すところがなく、共に古今の名詩である。(教本3巻90頁、4巻96頁) 二つの漢詩とも雲のイメージが浮雲、白雲と詠みこまれているが、漢詩や書の名言句には勿論和歌、俳句にも雲にまつわる表現が大変多いのが目にとまる。これは私の山国育ちの環境と文学趣味からくるものであろうかと自ら納得しているが、詩吟を始めるようにな

ってから、雲について喚起されるイメージが漢詩の世界では大層豊かで変化に富み、多彩多様なのに日頃感動している。手許から二、三を挙げてみると

○風は過ぐるも浮雲一片の蹤あり 客中

○黄河遠く上る白雲の間 涼川詩

○白雲千載空しく悠悠 黄鶴樓

○朝に辞す白帝彩雲の間 早に白帝城

○白雲生ずる処人家有り 山行

また試みに「字通」(白川静)で雲の字を

ひいて、漢詩に出たことのあるような熟語を

拾うと雲雨、雲影、雲烟、雲霞、雲臥、雲海

雲外、雲月、雲光、雲樹と次々に続き、雲の

字を下におく連語も白雲、行雲等々大変多岐

に亘っているのが見てとれる。(これらの中

には、わが愛飲の銘柄名もあり思わず苦笑)

ともあれ漢詩を吟じ、雲の字に強く関心が

ひかれるのは、わが人生も漸く黄昏のときを

迎え、やがては帰ってゆくであろうところと

去来する白雲のイメージを重ねて、良寛の書

にある「白雲流水共依々」の気持なのかなと

自らを慰めている次第である。

○次の連吟メモは

59年5月142号頃心、編集者中村岳愛先生が広報部長として発行された記事の中から抜粋しました。現在の会員さんも新しい方が多くなられましたので、ご参考になればと思い取りあげてみました。

連吟メモ

◇朗詠には「新体詩の朗詠」と、「新体詩、詩風の朗詠」とがあります。新体詩風朗詠とは、新体詩以外の詩文を、新体詩と同様の吟法で朗詠するという事です。

◇詩題を旧教本で区分すると（小諸なる古城のほとり）（星落秋風五丈原）（からまつ）

（山のあなたの山を詠める）「奥の細道」「自然と人生」「雨ニモ負ケズ」などは新体詩ではありません。説明は省略。

◇新体詩という語は明治15年に「新体詩抄」が発刊されたのが始まりとされています。

新体詩は、西洋詩に影響されて発生した詩形で、文語体の七五または五七調の定形律です。日本に新しい詩の形を開いたものです。その文学的意義は大きいとされています。

◇明治30年前後には、詩人も多く排出した。そして最も高い標準にあったものが島崎藤村であり、彼において新しい詩は、内容、形式ともに芸術的に完成したと評価されました。

しかしその新体詩も、明治40年代には名実ともに消滅してしまいました。そして大正以後の詩壇は、自由詩にとってかわられ、口語で自由律のいわゆる現代詩に完全に移行してしまいました。

◇現在の吟詠界は時代に関係なく漢詩、短歌俳句以外の朗詠に偏する韻文歌謡までも便宜的に、新体詩に含めているようです。従ってこれまで述べた新体詩より広義に扱い、新体詩風に朗詠できるものは一応新体詩として扱う、ということであると思います。

◇教本の「朗詠集」は、明治以降の詩を総括して「近代詩」と呼称し、符付けした詩題は新体詩と自由詩を掲載しています。

俳句

風早支部 後藤道岳

丹念に絵馬を掛けある梅の宮

大仏の羅髪おどろく春の雪

うたかたの恋といふもの古籬

入会

362 坂本 英雄 逗子市沼間二一十一一十六

(若葉) ☎〇四六八一七一―四四九三

363 鳴原 隆二 横浜市西区浅間町四一三四五

(幸和・松井教場)再(隆山)

☎〇四五―三二二―五〇五四

退会

26 根岸岳静(長柄) 63 坂田昇岳(桜山)

221 石井峯風(美太) 343 富沢孝子(幸和)

271 若林翠山(堀内E) 272 西岡蓉山(堀内E)

編集後記

そろそろ桜の候となりました。

今年の「NHK大河ドラマ北条時宗」の舞台は鎌倉です。

北条時宗は、一千二百五十一年(建長3年)鎌倉幕府五代執権、北条時頼の子として生まれる。17歳で八代執権となる。20代の若さで文永の役、弘安の役と、二度の元寇をしのぎ一千二百八十二年円覚寺を開山した。

七百五十年の昔を推測しながら鎌倉を歩いては如何でしょうか。「鎌倉懐古」窪田空穂(朗詠集)に詠われた幕府の跡や評定所跡などが現在も判ります。

良き春日をお過ごし下さい。